

算数授業のめあてとポイント

令和5年7月号

啓林館対応

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図れるようにしましょう。

学 年	単 元	単元のめあて と 授業のポイント
1 年	⑧ かず しらべ	◎ 単元のめあて(例) ものの かずの わかりやすい あらわしかたを かんがえて、はなそう。 ◎ 授業のポイント - 物の個数を、絵や図の大きさを揃えて種類ごとに均等に並べて表すようにする。このことで、身の回りの事象に関する数の大小関係を分かりやすく表したり その特徴を読み取ったり、できるようにする。 2年上巻①「ひょうや グラフ」の素地経験となる。 【小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説算数編 p.125D(1)参照】
2 年	上巻⑦ かさ	◎ 単元のめあて(例) ものの かさの くらべ方・あらわし方・計算のしかたを かんがえて、せつ明しよう。 ◎ 授業のポイント - かさの普遍単位は、かさを誰とでも比べ合ったり伝え合ったりするときに必要なになってくる。このような場面を工夫したい。 - p.88 において、「かさの異なる任意単位で比べる。」→「比べられないという問題意識」→「普遍単位で調べる」という手順を踏むことで、普遍単位の必要性が実感できるようにすることが大切である。以上のことは、3年⑩「重さ」、4年⑩「面積」の学習においても発展的に用いられる。 - dL(子どもの生活で実感できる分量)で測定しているとき、 ↑ 子どもに考えてほしいこと →「<u>もっと大きい(小さい)単位がいる</u>」→「単位 <u>1L(mL)の導入</u>」 ↑ 知らせること ④「長さ」の学習を生かして…単位 1cm の導入→もっと小さい単位 1mm の導入 - 量感を育てる→ペットボトル、水筒のふた等を利用して
3 年	上巻⑦ たし算と ひき算	◎ 単元のめあて(例) 2けたの数の たし算ひき算のしかたを 暗算で考えて、せつ明しよう。 ◎ 授業のポイント 計算の結果について、見通しをもつことが大切である。たす数ひく数について、繰り上がり繰り下がりのない場合と ある場合の範囲を明らかにしてから計算するようにする。
4 年	上巻⑥	6月号参照。
5 年	どんな計算になるのかな	問題文の意味を文章の区切りごとに読み取って、図や線を用いてそのわけを説明できるようにする。学習指導要領で重視される説明力を高める単元である。
6 年	⑥	6月号参照。
	どんな計算になるのかな	問題文の意味を文章の区切りごとに読み取って、図や線を用いてそのわけを説明できるようにする。学習指導要領で重視される説明力を高める単元である。

<お知らせと お願い>

「算数教育ネットワーク岡山」でHPを検索して、毎月の「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育情報コーナー」等をご覧ください、日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、seiden_atmark_po.harenet.ne.jp までMailでお知らせ下さい。(_atmark_ を@に直して下さい。)